

## 5 東住吉区 事後ヒアリングより

**ヒアリング対象：**校長、顧問教員、部活動指導員

### ① 学校部活動との関係：

- ✓ 小学校にサッカーチームがあって、外部チームか部活かの選択で初心者の受け皿として存続している。地域連携によって広い範囲から子どもが集まるのは嬉しい。学校以外の居場所として子どもの見守りができればと思う。(サッカー)
- ✓ 小学校から参加した2名はスムーズに参加できており、新1年生の入学前の取組みとしてもよかった。今年度4月に創部して1年足らずではあるが、矢田3中学校のそれぞれの文化祭で発表し合うなど着実に取り組んできた。(ダンス)
- ✓ 矢田地域が少子化で生徒も教員も減り、他中学校を選択されるという悪循環を断つため、数年前から地域と部活動を拠点化して多様な活動を保障していくと同時に、地域で支えていくという仕組みづくりを議論してきた。これまでは、少子化を踏まえ生徒の取り合いにならないよう部活動種目の新設は認めてこなかったが、この地域移行と拠点校方式化を契機に見直しを図り、来年度は、矢田西中で少林寺拳法部、やたなか小中一貫校では吹奏楽、今後は全市募集で女子サッカーを導入していく予定とも聞いている。子どもにも響く魅力ある発信につなげていきたい。(校長)
- ✓ 拠点校方式の課題面は、テスト前の部活動休みがバラバラなどの学校行事の調整や日々の連絡体制の確保。他校から参加する場合は出発前にラインを入れる体制になっている(ダンス)。ほかに拠点側と参加する側とで今後部員の人数が逆転した場合の運営コストの負担の整理なども今後議論が必要(サッカー)。課題を議論できるよう拠点校に関する窓口を地域担当の人権教育主担者に設定し、7校の主担者は毎週、校長は月1回、協議を行う機会を設けている(校長)。

### ② 利用施設との関係：

- ✓ 今回雨天でグラウンドが使えなかったが、7校連携の恩恵で近隣の矢田東小学校の体育館を利用できた。(サッカー)

### ③ 指導者の確保：

- ✓ 拠点校方式で一緒に活動する時間が確保できるよう部活動指導員を学校同士で融通できれば有難い。(校長)

### ④ 受け皿、事業収益性の確保：

- ✓ 事業主体の法人化は今後1, 2年でやりたい。生活指導などの地域との組織体制の事例があるので母体はある。(校長)